

2022年度  地球をまもる子どもたち大豆ってすごいぞ
手前みそをつくらう

大豆栽培



大豆収穫



みそづくり

板橋区立高島第一中学校
5組 7年生～9年生◎1月19日

SOE NEWS

No.192

2023年

3月



センスオブアース

市民による自然共生

パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

春に苗を植え、みんなで育た大豆。水やり、肥料、添え木といろいろな面倒を見て、秋に収穫。みそづくりまでやり遂げました！ 《生徒達の感想》 ●大豆を育てるのは大変だったけど、おいしくなったり、調味料になるから面白いし、楽しかった ●大豆は健康に良いから毎日食べた方がいい。納豆を食べることが大事です ●大豆はいろいろな食べものになれてすごい



煮た大豆はどんな香りかな



煮た大豆を袋に入れてつぶす



麴と塩をつぶした大豆と混ぜる

な。大豆を使ったものを大切にしたい ●大豆の中はどうなっているのか知りたい ●たるに向かって投げたのが楽しかった ●ぼくは納豆が苦手なので、食べてみようと思った ●大豆からみそを作れてすごいと思った ●みその作り方がわかっておもしろかった。毎日野菜を育てている人に感謝して食べる ●みそには塩や麴が入っているんだと知ったのがよかった



ずっと指導された畔上先生

《畔上先生より》静かに話を聞く場面と大豆をつぶしたり握ったりするなど、体を動かす活動があり、メリハリのある内容構成だったので、とても楽しんで活動している印象を受けた。みそが完成したこと



みそを握ってボール状に



みそボールは、空気を抜くため樽に投げ入れる

ことで目標を大いに達成できた。環境への関心が大いに高まったと思います。今後も畑の作業に心を入れていきます。今回のみそづくりは生徒はもちろん、我々担任も初めての体験だったこともあり、新鮮かつ楽しみながら活動させていただきました。生徒には畑を耕すところから大豆が出来上がるまでを体感し同時に食材ができるまでの苦労も実感することができました。



みそを作った生徒の感動に共感する区環境教育係のお話



ひな人形と並んだかわいい綿人形

わた綿を育てよう

わた綿から糸を紡ごう



秋に収穫した綿で
人形作りも



5月に綿を植えて
育ててきた

板橋区立
はすのみ児童館◎2月10日

東京に本格的な雪が降った朝、この日「みんな来るかな？ 来ないかな？」と職員が心配しているうち、なんと子ども 14 人、保護者 13 人が集まってきました。雪なんてなんのそのです。日頃の児童館と地域とのつながりの強さに感銘しました。



収穫した綿に触り、ポリエステル感触と比べ、ワタの温かさ丈夫さ、汗を吸いやすいなど体を守るワタの長所を学び、タネとワタを分離し、かわいい人形を作りました。



《みなさんの感想》

- わたを触ることがなかったが、触ることができた
- 糸をつむぐ体験ができた
- わたが体に良いことが学べた
- わたとタネの分離がむずかしかったが、機械はあっという間にできた
- わたを育ててくる活動をしたので、今日はつくれてうれしい
- 仕事が自宅勤務、子どもがいっしょに来て喜んで



《須藤絵美先生より》雪の中たくさんの親子が意欲的に活動に参加していた。親を中心に活動に参加、興味深く話を聞き、理解されていた。親子の会話はもちろん、保護者同士でも出来上がった人形を見せ合いながら笑顔で会話する姿がたくさん見られた。糸にするのはなかなか大変等、昔ながらの作り方を知り、大変さも感じていた。5月の綿の種植え体験から続けて参加の家庭が多く、水やりや収穫糸紡ぎの流れを一通り見てもらうことができ親子で楽しく興味深く参加できたと思う。





箸づくりと講演会

自然を守り取り戻す

講師 埼玉県生態系保護協会事務局長 前田博之氏
2月19日(日) 主催 エコポリスセンター/企画運営 センスオブアース

《箸づくり体験の感想》 ●ヒノキの香りに包まれながら、本来の箸の使い方まで学びました ●本日特に印象に残ったことは学生の皆さんの説明やアシスタントがしっかりしていることでした。この日のためにいろいろ準備してきたのだなと想像できた。一本の箸を作るだけでもこんなに大変だと思い知らされた ●箸が製造されるまでの過程や、間伐材について、近年の森林状況などの説明を行った後に箸づくりを行えばさらに良い

《「自然を守り取り戻す」講演より》

◎「生物多様性枠組み」で、2030年までに陸海の30%保全目標。《30BY30》地域ごとに各30%保全をしようと呼びかけ。埼玉で取り組んでいる保全活動 ◎ナショナルトラスト活動（売られる森をみんなで買い取り保全） ◎サクラソウトラスト…守るために上尾で30支部が活躍 ◎あらか川流域のエコロジカルネットワーク…つながりながら町を作る ◎昔の川の曲がった流れを生き返らせる ◎見沼田んぼ首都高ビオトープ…水をためておく。多重防衛治水…調整池もセットに。世界での再蛇行化例：スウェーデン ●身近な自然を守っていかないと無くなってしまふものなのだという危機感を持った。森は私有地（売買可）



あらか川流域再生活動として入間川流域プロジェクトをつくり、企業とNPOが一緒に進めている



水…調整池もセットに。世界での再蛇行化例：スウェーデン ●身近な自然を守っていかないと無くなってしまふものなのだという危機感を持った。森は私有地（売買可）



板橋第七小学校



板橋第二小学校



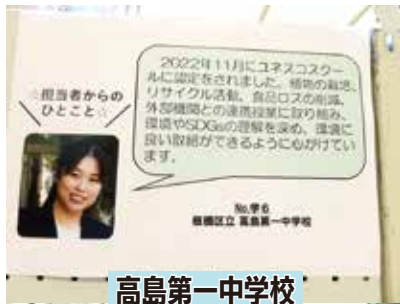
第22回 環境なんでも見本市

2月1日～3月1日◎テーマ「SDGs、私たちの取り組み」
WEB・展示・ワークショップ

ニュースでは、スペース上、学校を中心に展示の一部をご紹介します。身近な自然を守る取り組み・地産地消を目指す活動が進んでいます



緑小学校



高島第一中学校



西台中学校



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp